

第3回 栃木県総合計画懇談会部会

(第1部会 結果概要)

平成17年7月1日

インターネットで公表するために、要約しております。なお、委員名簿、懇談会資料などは、既に公開しております。

栃木県企画部企画調整課

○第3回栃木県総合計画懇談会部会（第1部会）の開催結果

- 1 日 時 平成17年6月29日（水）10:00～11:59
- 2 場 所 栃木県公館大会議室（宇都宮市）
- 3 出席者 第1部会委員 5名
栃木県 企画部長ほか関係職員

4 議事

① 議題1

事務局から「新しい総合計画における施策の展開方向等について」（資料1のうち1～18ページ）、「新しい総合計画の政策体系（案）」（参考資料1）、「新しい総合計画の成果指標一覧（案）」（参考資料2）を説明した後、当該部会が所管する施策について意見交換を行った。

【各委員の発言要旨】

〔臼井委員〕

13ページ、施策121のデータで生涯学習ボランティアセンター登録者数が、平成12年度から13年度の間で急に増えているのは何故か。

16ページ、「県民文化の振興」の指標で芸術文化活動等参加率は具体的にはどう算出しているのか。

〔水越生涯学習課長〕

生涯学習ボランティアが増えたのは、従来、総合教育センターのみに設置されていた相談窓口を、各教育事務所にも設置したことが大きいと思う。

〔津野生活環境部次長〕

芸術文化活動参加率は、多分、世論調査か県政モニター調査の結果だと思う。

〔臼井委員〕

「芸術文化活動を何かやっていますか」という質問に「はい」と答えた人か。それは大人か。

〔津野生活環境部次長〕

そのとおりである。

〔中村専門委員〕

1ページの施策111で、データ（2）には小・中の特殊学級等に在籍する児童生徒数があるが、これに対応した成果指標がない。スペース等の問題もあると思うが、ある程度データと関

連づけた指標を設定した方が、見やすいと思う。

4の成果指標に「授業がわかる児童生徒の割合」とあるが、何をもって授業がわかると判断しているのか。単位施策が書かれてくれば理解しやすくなるのかもしれないが、巻末に用語解説を入れて説明してはどうかと思う。

〔荒川教育次長兼総務課長〕

課題を説明するデータを記載したものであり、成果指標とは視点が違っているが、ご指摘のとおり、データと成果指標が関連づけられればベターだと思う。

例えばデータ欄の（1）教育課程実施状況調査については、国が別途全国テストを実施する方向で検討を進めており、両者の関係をどう図るのか未確定な部分があるため、指標にしづらいている。

〔古澤学校教育課長〕

「授業がわかる児童生徒の割合」については、教育課程実施状況調査項目の中で、「授業がよくわかる」、「大体わかる」、「あまりわからない」、「ほとんどわからない」という設問に対して、「大体わかる」、「よくわかる」と答えた児童生徒の割合である。解説をつけたい。

〔中村専門委員〕

成果指標は、3の施策の展開と関連してくると解釈していいのか。

文字等の解説は、スペースや表現の分量もあろうが、あった方が読む方も理解しやすいと思う。

〔加藤部会長〕

データは課題が出てきた根拠であり、単位施策を積み上げて成果指標に多少つながっているということで理解していただく。この点は重要であり、多様な切り口で成果を見るためにも、今回指標を増やしている。

特殊学級等に在籍する児童生徒数が増えているのは由々しきことだと思う。こういう子どもに対して各学校がどのように取り組んでいるのかは、文章を吟味すれば入ってはいるが、一般の方はこういう課題に敏感なので、文章もそうだが、成果指標についても「授業がわかる」といった感覚的な成果指標だけではなく、具体的に人員配置をこうするというように、課題や方法が到達目標と連動すればいいと思う。そういう考え方で成果指標を設定してほしい。

〔藤井副部会長〕

2ページの指標では、中村委員と同じ意見である。データの（1）と成果指標の一つ目が確かにずれている。国の政策が動いているため、学力テストを指標に置くことが難しいのは理解

するが、「授業がわかる児童生徒の割合」に関しては、小学生が7割、中学生が5割、高校生が3割という全国調査が出ているので、学年が上がるにつれてだんだんわからなくなってくるんだということも説明できるよう、小6と中2とは分けた方がいいと思う。詳しく説明付きで出した方がいい。

共通する話だが、指標をどういう具体的な戦略や対策で目指していくのかが見えにくい。例えばあいさつができる子どもを100%にするために何をするのか。朝食を食べる児童生徒の割合を増やすために何をするのかを書いてない。施策の展開の文章と成果指標をつなぐものがあつた方がいいと思う。

特殊教育の成果指標がないことも気になるし、教員の長期社会体験研修修了者も唐突な印象。むしろ教員の適正配置の指標があつた方がいいと思う。学ぶ力をはぐくむための環境整備というのであれば、どれぐらいの密度で先生が生徒に接しているかを表せる数値はあると思う。今の計画で採用している教員1人当たりの児童生徒数や少人数指導・少人数学級をしている割合の方が説得力がある。

特別支援教育に関しては、施策の展開の中で「乳幼児期から卒業後までの一貫した相談体制の支援体制を整備し」と書いてあるが、もっと具体的な対策を書いた方がいいと思う。

〔荒川教育次長兼総務課長〕

今の表現のままでは、施策の展開方向がよくわからないということだと思うが、企画部次長が説明したように、施策の展開は〇がついているところには、これから詳しく中身を書き込んでいくことになっている。

例えば、特別支援教育については、今朝の新聞に、一つの動きとして、市町村や県、国、医療機関、教育機関が支援のための連携会議を設置し、職業的な自立の支援を含めて進めていくこととなっており、そのままではないにしても、こうした取組を具体的に記載したい。

総合計画に部門ごとの細かいことまでを書き込むことについては、分量的な制約がある。並行して部門計画である教育振興ビジョンの見直しをしており、その中で個々の課題について、詳しいデータを挙げながら、施策の展開方向、重点施策などを明らかにしていきたい。

〔加藤部会長〕

112の心の教育についてだが、いじめや暴力行為、不登校など、栃木県は全国的に見ても厳しい状況にある。

不登校やいじめの原因としては、友人関係とか学力とかいろいろあると思うが、こういうデータや表現があると、その解決方法や成果指標に目がいってしまうと思う。それに耐えられる

成果指標になっているのか不安である。確かに、根拠となるデータを出した方が課題が明らかになり、現状を理解する上では有効だが、解消するためにどうするのかといったことにも配慮して、成果指標を設定した方がいい。

いじめや不登校については、小学校や中学校に入りたての不慣れな状況の中からすさんだ行動がでてくるが、こういうときにこそ、学校カウンセラーなど専門の臨床心理士が、子どもたちの悩みを聞いてくれる体制を取るなど真剣に取り組まないといけない。そういう解決策を記載しないで、データだけが出てしまうと不安になってしまう。単位施策にそういう説明を入れながら、皆さんこうしていきましょうというような配慮のある文言が入ってくると、読みやすいと思う。

113の健康な体づくりと学校安全で、学校安全のところ、現在問題となっていることに対して、それなりの方向が出ているし、食育の問題も入っている。特に小・中については、朝ごはんの大切さを十分教育すれば、親も刺激されるので、そういう表現があるといい。

〔臼井委員〕

113について、健康な体づくりと学校安全の確保が一緒というのは違和感がある。

112のところ、体験活動の充実の中に「就業体験や自然体験など」と書いてあるが、成果指標では「中学校における職場体験学習等の実施校の割合」というように、「職場体験」が例示で出てくるが、職業観に結びつけるとすればむしろ114の施策になると思う。ここでは、福祉関係やボランティア活動などのさまざまな社会体験に重きを置くというような指標の方がいいと思う。

〔藤井副部長〕

114の指標で、「インターンシップ」の目標値設定の根拠は、全高校生に対する割合か。

〔古澤学校教育課長〕

公立高校の卒業生のうち、就職または専門学校に進む約45%の子どもにインターンシップを経験させたいというものである。

〔藤井副部長〕

就職する人はインターンシップ、大学に行く人は勉強だけというのはおかしいと思う。これがキャリア教育であるならば、すべての高校生にインターンシップを経験させることが大切なのではないか。

〔古澤学校教育課長〕

本県の場合、社会体験活動も自然体験活動もあるが、大部分は中学生のときに職場体験活動

を経験している。

全ての高校生にインターンシップを、というご指摘についてはごもっともだとは思いますが、就職や専門学校に進む普通科の高校生はインターンシップを経験している。また、進学者が多い学校では、総合的な学習の時間で、自分のあり方、生き方を考えながら、大学で何を学び、社会に出ていくかという進路指導をしているし、修学旅行の際に、先輩の職場訪問を実施しているところもある。

〔加藤部会長〕

高校中退率は出したくない数字だが、現実として課題となっている。問題は義務教育における職業体験と、高等教育におけるインターンシップを経験することによって、自分の中で、今学んでいることと社会との連携をどう図っていくのかということ。

しかし、この施策は、現状と課題の記載とデータとは連動しにくいかもしれない。中卒で頑張っている子にも光をあててもらいたいし、高校中退した後勉強もせず就職もしていない青少年像もひとつあるかもしれない。

〔中村専門委員〕

8ページ「インターンシップ実施生徒数の割合」の成果指標については、藤井委員と同じ意見だ。目標値の根拠の説明が、成果指標名の趣旨とずれているのではないかと思う。

外国語指導助手（ALT）等をやっている高等学校の割合という指標はいいが、栃木県にはALTが現在何人いて、どういうことをしているとといった説明が必要だと思う。

さらには、他県と比較してALTの質がどうなのかということにも触れる必要がある。

〔臼井委員〕

115番の成果指標の「心のルネッサンス年間行動計画策定数」と「オピニオンリーダーの養成者数」は、いずれも大切だとは思いますが、成果と言えるのか。もっとぴったりくる成果指標はないか。

〔加藤部会長〕

「家庭教育オピニオンリーダー」は今の計画では、どのように活動しているのかというものであったが、今度のもは養成者数に代わってしまい、指標としては後退している。

オピニオンリーダーにいかに活動してもらうかが課題となっているはず。

〔藤井副部会長〕

14ページの施策121の社会教育主事有資格教員数の指標についても同じ。この数はほぼこうなるというように結果が決まっているものなので、違うものがないと思う。

〔加藤部会長〕

幼稚園・保育所、小中学校では、ブックスタート、10分読書などで読書活動推進ボランティアに協力いただいている。芸術文化活動に近いものかもしれないが、そうした人の協力によって子どもたちの心を養っているということも、単位施策の中に書いてもらえるといい

〔中村専門委員〕

社会教育主事を知らない人もいるし、15ページに「日光の社寺」と書いてあるが、それだけでは分からない人もいるので、世界遺産に登録されている具体的な面の説明があってもいい。

17ページのスポーツでは、今の計画では「広域スポーツセンター」の整備が記載されていたと思うが、指標には入れないのか。それが、今回「公共スポーツ施設」となったのは、理由があるのか。

〔森島スポーツ振興課長〕

広域スポーツセンターについては、できるだけ早期に設置したいと考えており、現在、具体的な記載について検討している。

〔佐藤企画部次長〕

「とちぎ21世紀プラン」の72、73ページを見ていただくと、指標の「児童生徒の学習到達度等に応じた授業」に「※」をつけ、その下で具体的に説明を加えている。ALTについても「外国語指導助手」と解説している。今回の資料ではそこまで書き込んでいないが、新しい計画でも、用語解説等については、適時、適切な形で記載する予定である。

〔臼井委員〕

ボリューム的には難しいかもしれないが、例えば、現在「外国語指導助手」がどんな状況なのかを書いてあれば、施策に対する県民の理解も深まると思う。

〔佐藤企画部次長〕

例えば、「とちぎ21世紀プラン」の73ページで、ALTが「外国語指導助手」として書かれており、ALTによる授業風景を「高校における国際理解教育」というタイトルを付けて写真を載せている。このような言葉と写真による表現などをさらに工夫し、より分かりやすくしていきたいと考えている。

ALTの現状等の説明については工夫させていただく。

〔藤井副部会長〕

114の施策で、加藤部会長から高校中退やフリーターの問題に関して意見があったように、この問題について新しく項目を起こしてもいいと思う。日本としても大きな社会問題だ。115

の「自立した青少年育成」に入るのかもしれないが、そうなるセクションがまたがって難しいのかもしれない。

115のデータの(1)は「栃木県の若者は元気がない」ということがよくわかるデータだ。さらに、フリーターや中退のデータも出した上で、若者の就業支援のための機関を増やすとか、相談件数を増やす、中退率を減らすなど、わかりやすい指標を設定した方がいいと思う。

青少年教育施設の利用というのは県民にはなじまない。訴えるような成果指標があるといい。
〔佐藤企画部次長〕

フリーターやニートについては、資料1の51、52ページの「現状と課題」の中で「フリーターなどの不安定就労者が増加しており云々」と記載している。

「産業人材の育成と円滑な就労の促進」という施策の単位施策の中で、「様々な場面に応じた若年者等のキャリア形成を支援する」といった記載で、フリーター・ニート対策を位置づけている。また、先ほど議論となった教育の施策でも、職業体験の充実を図っていくこととしている。

〔藤井副部長〕

話は分かるが、その狭間のあたりをアピールできるといいと思う。

〔臼井委員〕

現状に対する危機感是谁もがもっていると思う。しかし、今何とかしなければ、という切迫感が出ていないのではないかと思う。そうした県民意識に応えられるような施策展開、あるいは指標でなければいけないと思う。

〔吉柴委員〕

私も来春卒業で、就職が決まらなかったらフリーターしかない、という危機感を感じている。しかし、働きたくても働ける場所がないということや、キャリア教育をしても、社会に出たときに生かせる場がないというのも問題だと思う。社会全体で考えないといけないと思う。

この資料を読んで、確かに言葉の説明が乏しいと思う。「心のルネッサンス運動」とか、「オピニオンリーダー」にしても、普通の人が普通に読んでわかるものがないと思う。

教育振興ビジョンには関心をもっている。

〔佐藤企画部次長〕

資料1の右のページに主務担当部局と主な関係部局が書いてあるが、第2部会の委員から、そこに「教育振興ビジョン」や「農業振興プラン」などの部門計画名を、さらに詳しい内容が必要な場合の参照資料として載せてはどうかという提案があった。そういう工夫をしていく

い。

〔加藤部会長〕

12ページの成果指標に「ビデオ・雑誌自販機等の立入調査実施件数」があつて、年々件数が増える設定になっているが、増加が目標でいいのか。長期目標としては、立入調査をしなくなることだと思うが、どう理解すればいいのか。

〔直井女性青少年課長〕

ご指摘のように、立入をしなくても済むような環境をつくるのが大切だと思う。現状としては、7月や11月の強調月間に合わせて業者を指導することによって、できる限り環境を浄化していきたいということで、設定している。

〔加藤部会長〕

関係者が連携し、最初に大々的に指導をしてしまうことはできないのか。発見して指導し、また発見して指導し、というようなやり方しかないのか。行政としては一生懸命やっている指標であっても、読み取り方がいろいろ出てきてしまう。

〔津野生活環境部次長〕

施策の116「青少年を取り巻く環境の整備」については、まず、大人社会そのものに、いろいろな事件の原因がある。例えば、自販機が置いてあるから買ってしまふ。それをできるだけ除去しようというのが、大人が義務を負うべき「環境整備」ではないかという観点で設定している。

加藤部会長のご意見にあつたオピニオンリーダーについてだが、今の計画の指標も今回の指標も「養成した人はすべて活動してくれる人」ととらえており、基本的には変わっていない。

「活動している家庭教育オピニオンリーダーの数」としたときに、「活動していないオピニオンリーダーがいるのか」という疑問がでてくるので、むしろ「養成数」の方が正確な表現であろうということで、今回の指標名とした。

臼井委員から冒頭にご質問のあつた文化関係の指標については、二十歳以上の2,000人を対象とした県政世論調査で、「1年間に文化芸術活動に参加しましたか」という設問への回答を参加率として表している。

〔荒川教育次長兼総務課長〕

施策114番の中で、フリーターやニートに関する具体的な記載や適切な指標の設定についてのご指摘をいただいた。

教育委員会としては、「マイチャレンジ推進事業」やインターンシップなどを通じて、なる

べく早い時期から健全な職業意識を持ってもらえるよう取り組んでいる。

こうしたことは、今後できるだけ書き込んでいきたいし、部門別計画の教育振興ビジョンにも詳しく書きたいと思っている。

フリーターとかニートは、卒業して就職はしたけれども、その後やめてしまってフリーターになるとか、求職活動もしないというもの。学校終了後の、まさに隙間の部分であり、施策114の指標としてはいいものが見つからない。いいものがあったらご教示願いたい。

〔加藤部会長〕

いい成果指標があったら、事務局に連絡されたい。

② 議題2

事務局から『栃木県のキャッチフレーズ』の選考状況について（資料2）を説明した後、当該部会が所管する施策について意見交換を行った。

〔中村専門委員〕

「律儀なとちぎ よいとち・ぎ」を提案する。「律儀」は礼儀や義理をかたく守る、実直、正直など、県民性にぴったりくる言葉だと思う。そして、我々の土地には誇っていいものがあるということで「よいとち」とした。

〔加藤部会長〕

候補作品10点に中村委員の案を加えて、ご検討いただきたい。

〔加藤部会長〕

この次の懇談会で結論が出るのか。

〔佐藤企画部次長〕

次回で決定となる。途中経過は連絡させていただく。

〔加藤部会長〕

以上で第3回の部会を終了する。第2次素案の検討作業に、本日のご意見を生かしてほしい。